

# 仙台市民有志 米リバサイド市訪問



## 震災支援「ありがとう」

仙台市の市民団体「仙台リバサイド交流連絡協議会」(鈴木健治会長)のメンバーがこのほど、同市の国際姉妹都市、米国・リバサイド市を訪問し、東日本大震災で受けた市民からの50万ドル(約3800万円)の義援金への感謝の気持ちを伝えるとともに市民と交流し、親交を深めた。メンバーは「今後も互いの絆を大事にしたい」と思いを新たにしている。

一行は、太白区の大和文明さん(72)、加藤新一さん(70)ら5人。9月30日と10月1日の両日、大和さんらは、06、07年に交

に開かれた姉妹都市連合2011流50周年記念で現地を訪れ、リバン・パンフィック会議へのバサイド市中部のホワイトパ参加要請を開催地のリバサイド市から受け、伊藤敬幹副市長ら市議会に出向いた加藤さん(左から2人目)、大和さん(同3人目)ら市民訪問団のメンバーに加わったほか、市議会で大和さんら市民訪問団のメンバーが被災状況と謝辞を述べるスピーチも行った。

今回は、現地のボランティア約10人とともに庭園の修繕作業に加わったほか、市議会で大和さんが被災状況と謝辞を述べるスピーチも行った。

# 姉妹都市 交流深める

加藤さんは若林区井土の自宅が津波で全壊。結心庭を造った際に同市から贈られた感謝状も家財道具とともに流された。5月に来仙した際、加藤さんの被災を聞いたロナルド・ロバリツジ市長の計らいで、議場ではサプライズとして加藤さんに感謝状の複製が贈られた。

「津波で全財産を流されたが、心までは流されなかったと、向こうの皆さんに伝えたかった」と加藤さん。旧知の仲間とも再会し、各種のパーティーで市民の歓待を受けた。感謝状の複製を「励みになる」と喜ぶ。

一行は現地に20日間滞在し、帰国後は現地から託された折り鶴を名取市の小学校に届けるなど交流の橋渡し役も担っている。大和さんは「リバサイドの皆さんは温かく迎えてくれた。市民交流のありがたみを実感したい」と話している。